

看護学概論	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>看護の実践に必要な基礎的理論、看護の主要概念、看護倫理、看護の役割及び看護の歴史を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="flex: 1; min-width: 300px;"> <p>1 看護の誕生と発展</p> <p>(1) 看護の変遷</p> <p>(2) 欧米の看護の発展</p> <p>(3) 日本の看護の発展</p> <p>2 看護の概念</p> <p>(1) 看護の定義</p> <p>(2) 看護の主要概念とそれぞれの関係</p> <p>①看護</p> <p>②人間</p> <p>③健康</p> <p>④環境</p> <p>(3) 看護職の資格と責任と業務</p> <p>(4) 看護の役割と機能</p> <p>①保健・医療・福祉システムと看護の位置づけ</p> <p>②看護実践の場と役割</p> <p>(5) 看護におけるケアの意味</p> <p>3 看護の対象としての人間</p> <p>(1) 生活者としての人間</p> <p>①各期の成長発達</p> <p>②生活の4つの側面（身体的・精神的・社会的・文化的側面）</p> <p>(2) 人間のこころの理解</p> <p>(3) 人間と環境の相互理解</p> </div> <div style="flex: 1; min-width: 300px;"> <p>4 健康と看護</p> <p>(1) 健康の概念</p> <p>①健康の定義</p> <p>②健康の考え方の変遷</p> <p>(2) 健康に影響する諸要因と環境</p> <p>(3) 健康レベルに応じた看護</p> <p>5 看護理論と看護実践への活用</p> <p>(1) ナイチンゲールが説く看護の基本</p> <p>(2) ヘンダーソンの基本的看護</p> <p>(3) 主要な看護理論</p> <p>ニード論、セルフケアモデル</p> <p>適応モデル、相互作用モデル</p> <p>ケアリング理論、文化ケア理論等</p> <p>6 看護倫理</p> <p>(1) 医療をめぐる倫理の歴史</p> <p>(2) 医療における倫理的問題</p> <p>①医療倫理職の倫理規定</p> <p>②患者の権利とインフォームド consent</p> <p>(3) 看護倫理とは</p> <p>①看護倫理の必要性</p> <p>②看護者の倫理要綱</p> <p>③倫理的葛藤と対応</p> <p>(4) 看護実践における倫理的問題への取り組み</p> </div> </div>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p>演習（「看護覚え書き」「看護の基本となるもの」から看護を捉える。事例で考える倫理的問題と対応を考える。）</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験、レポート（私が考える看護）</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（1）看護学概論 医学書院</p> <p>看護学テキストNice 看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 南江堂</p> <p>看護の基本となるもの 日本看護協会出版会</p> <p>看護覚え書き 日本看護協会出版会</p>			

看護方法論Ⅰ (安全・安楽)	講師：	1 年前期	1 単位（15 時間）		
<b>授業の目標</b> 看護技術について考え、看護における安全と安楽の意義を理解し、その援助方法を習得する。					
<b>授業の内容</b> <table><tr><td>1 看護技術の考え方 (1) 技術とは (2) 看護技術の特徴 (3) 看護技術を適切に実践するための要素 ①科学的根拠に基づいた看護技術の必要性和判断 ②安全・安楽の確保 ③看護技術の正確な方法の熟知と実施 ④インフォームドコンセント ⑤患者の状態に応じた看護技術の選択</td><td>2 看護における安全、安楽 (1) 安全の意義 (2) 安全を脅かす因子 (3) 安全を確保する援助 ①生活環境における安全 ②感染予防の意義 (4) 安楽の意義 (5) 安楽を確保する技術 ・良肢位 ・安楽な体位 ・温罨法 ・冷罨法</td></tr></table>				1 看護技術の考え方 (1) 技術とは (2) 看護技術の特徴 (3) 看護技術を適切に実践するための要素 ①科学的根拠に基づいた看護技術の必要性和判断 ②安全・安楽の確保 ③看護技術の正確な方法の熟知と実施 ④インフォームドコンセント ⑤患者の状態に応じた看護技術の選択	2 看護における安全、安楽 (1) 安全の意義 (2) 安全を脅かす因子 (3) 安全を確保する援助 ①生活環境における安全 ②感染予防の意義 (4) 安楽の意義 (5) 安楽を確保する技術 ・良肢位 ・安楽な体位 ・温罨法 ・冷罨法
1 看護技術の考え方 (1) 技術とは (2) 看護技術の特徴 (3) 看護技術を適切に実践するための要素 ①科学的根拠に基づいた看護技術の必要性和判断 ②安全・安楽の確保 ③看護技術の正確な方法の熟知と実施 ④インフォームドコンセント ⑤患者の状態に応じた看護技術の選択	2 看護における安全、安楽 (1) 安全の意義 (2) 安全を脅かす因子 (3) 安全を確保する援助 ①生活環境における安全 ②感染予防の意義 (4) 安楽の意義 (5) 安楽を確保する技術 ・良肢位 ・安楽な体位 ・温罨法 ・冷罨法				
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 良肢位、安楽な体位、体位の保持、温罨法、冷罨法 衛生的手洗い					
<b>評価方法</b> 筆記試験					
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

看護方法論Ⅱ (コミュニケーション)	講師：	1 年後期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 看護実践に必要な援助的コミュニケーション技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 看護におけるコミュニケーションの意義 （1）看護におけるコミュニケーションの重要性と目的 （2）看護におけるコミュニケーションの特徴  2 信頼関係とコミュニケーション （1）患者－看護師の関係 （2）関係構築のためのコミュニケーションの基本  3 効果的なコミュニケーションの実際 （1）傾聴の技術 （2）情報収集の技術 （3）説明の技術 （4）コミュニケーション技術の展開（ロールプレイ） （5）応答能力を高めるためのリフレクション（プロセスレコードの活用）  4 コミュニケーション障害がある人の対応  5 人間関係とチームワーク （1）患者やスタッフとの人間関係 （2）チームワークと多職種連携			
<b>授業方法</b> 講義 演習 ロールプレイ、プロセスレコード <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院			

看護方法論Ⅲ (生活環境の調整、活動、休息・睡眠)	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 生活環境や活動、休息・睡眠が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 生活環境の調整 (1) 生活環境の意義 (2) 環境因子と健康に与える影響 (3) 入院に伴う生活環境の変化 (4) 生活環境の調整方法 ①環境整備 ②ベッドメイキング ③臥床患者のシーツ交換 </div> <div> 2 活動の援助 (1) 活動の意義と身体への影響 (2) 活動を阻害する要因と心身の変化 (3) 活動するための援助方法 ①ボディメカニクス ②基本体位 ③体位変換 ④移乗と移送 (車椅子・ストレッチャー) ⑤歩行介助 </div> <div> 3 休息・睡眠の援助 (1) 休息・睡眠の意義 (2) 睡眠の種類 (3) 睡眠障害の種類 (4) 睡眠を阻害する要因 (5) 休息の不足による心身の変化 (6) 休息・睡眠を促す援助 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 環境整備、臥床患者のシーツ交換、ボディメカニクス 体位変換、車椅子への移乗と移送、ストレッチャーへの移乗と移送、歩行介助			
<b>評価方法</b> 筆記試験、実技試験（車椅子への移乗と移送）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論Ⅳ (衣生活・清潔)	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 衣生活と清潔が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 衣生活の援助 (1) 衣生活の意義 (2) 衣生活に影響する要因 (3) 衣生活のアセスメント (4) 衣生活の援助方法 ・臥床患者の寝衣交換 ・おむつの取り扱い  2 清潔の援助 (1) 清潔の意義 (2) 清潔に影響する要因 (3) 清潔のアセスメント (4) 清潔の援助方法 ①全身の清潔の援助方法 ・入浴 ・シャワー浴 ・全身清拭 ②身体各部の清潔の援助方法 ・部分浴 ・部分清拭 ・洗髪 ・口腔ケア ・陰部洗浄			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 寝衣交換、全身清拭（足浴含む）、おむつ交換、洗髪（臥床状態、座位） 口腔ケア、シャワー浴の介助（演示）、陰部洗浄（モデル）  <b>評価方法</b> 筆記試験、実技試験（全身清拭と寝衣交換）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論Ⅴ (フィジカル イグザミネーション)	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 対象の健康状態を系統的に捉えることを理解し、身体的な情報収集をするための観察技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 ヘルスアセスメント (1) ヘルスアセスメントとは (2) フィジカルアセスメントとは (3) フィジカルイグザミネーションとは  2 フィジカルイグザミネーションの共通技術 ・問診、視診、聴診、触診、打診  3 バイタルサインの測定 ・体温、呼吸、血圧、脈拍、意識、SpO <sub>2</sub>  4 身体計測 ・身長、体重、腹囲測定  5 系統別フィジカルイグザミネーション (1) 胸部・肺 (2) 心臓・循環系 (3) 腹部・消化器系 (4) 眼、耳、鼻、口腔 (5) 脳・神経系			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 バイタルサインの測定（体温・呼吸・脈拍・血圧測定、意識レベル評価）の測定 眼・口腔の視診、呼吸音・心音の聴取、腸蠕動音の聴取、腹部の触診 胸部・腹部の打診 <b>評価方法</b> 筆記試験、実技試験（バイタルサインの測定）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論VI (フィジカルアセスメント)	講師：	1 年後期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 身体症状がある対象に対してフィジカルイグザミネーションを活用しアセスメントできる。			
<b>授業の内容</b> 1 身体症状がある対象のフィジカルアセスメント （1）事例 ①呼吸困難を訴える対象のフィジカルアセスメント ②胸痛を訴える対象のフィジカルアセスメント ③腹部膨満感を訴える対象のフィジカルアセスメント ④転倒した対象のフィジカルアセスメント （2）フィジカルアセスメントの実践 ①問診、自覚症状の確認 ②フィジカルイグザミネーションによる情報収集 ・対象者の状況に適した項目、方法の検討 ③アセスメント ・必要な情報の選択、情報の統合的な判断 ・基準値や望ましい状態との比較 ・対象者の身体状態の判断 ④アセスメントの活用 ・対象者に必要な看護援助			
<b>授業方法</b> 演習 校内実習 問診からフィジカルアセスメントまで <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術 I 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論Ⅶ (食生活・排泄)	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 食生活と排泄が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 食生活の援助 (1) 食事・栄養の意義 (2) 食習慣の変化 (治療食・療養食) (3) 食生活による心身の変化 (4) 食事・栄養状態のアセスメント (5) 食生活の援助方法 ①自立した食事摂取が困難な場合の援助 ・食事介助 ②経口摂取が困難な場合の援助 ・経管栄養法 ・経静脈栄養法 </div> <div> (5) 排泄の援助方法 ①床上排泄の方法 ・便器・尿器による介助 ②排尿を促す援助方法 ・自然排尿を促す方法 ・一時的導尿 ・膀胱留置カテーテル ③排便を促す援助方法 ・自然排便を促す方法 ・高圧浣腸 ・グリセリン浣腸 </div> </div> 2 排泄の援助 (1) 排泄の意義 (2) 排泄に支障をきたすことによる心身の変化 (3) 排泄に影響するもの (4) 排泄状態のアセスメント			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 食事介助 便器・尿器による介助、グリセリン浣腸（モデル）、一時的導尿（モデル） 膀胱留置カテーテル（演示）			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（3）栄養学 医学書院			

看護方法論Ⅷ (看護過程、学習支援技術)	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 看護過程の概念を理解し、その展開方法を学ぶ。また看護における学習支援の必要性を理解し、対象に合わせた学習支援方法を習得する。			
<b>授業の内容</b>			
<div> <div> 1 看護過程の考え方と展開方法 (1) 看護過程とは (2) 看護過程に看護理論はなぜ必要か (3) 看護過程の基盤となる考え方 ①問題解決課程 ②クリティカルシンキング (4) 看護実践におけるリフレクション (5) 看護過程の構成要素 ①アセスメント ・情報の種類と収集方法 ・情報の分析・解釈、統合 ・問題の明確化（看護問題・共同問題）と優先順位 ②看護計画 ・目標と評価日の設定 ・計画の立案 ③実施 ④評価 (6) 看護記録 ①看護記録の目的と機能 ②看護記録の法的位置づけ ③看護記録の基本的要素 ④記録と倫理、報告 </div> <div> (7) 看護過程の展開 ・基本的欲求が阻害された対象の生活行動の援助 </div> <div> 2 看護における学習支援 (1) 健康戦略の変遷と健康支援の場 (2) 健康状態に応じた学習支援 ①外来における学習支援 ②入院時の学習支援 ③退院時の学習支援 (3) 個人・家族・集団を対象とした学習支援の実際 ①対象に合わせた目標設定 ②対象に合わせた支援方法と媒体の工夫 ・個別的で具体的な学習支援 ・家族を対象とした学習支援の関わり方 ・集団での学習支援を生かす方法 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 看護過程の展開			
<b>評価方法</b> 筆記試験、レポート（基本的欲求が阻害された対象の生活行動の援助）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護過程に沿った対症看護―病態生理と看護のポイント― 学研メディカル秀潤社			

<b>看護方法論IX</b> (感染予防、診察・検査時の看護)	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 感染予防と検査・処置に関する看護の役割を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b>			
<div> <div> 1 感染予防の技術 (1) 感染の成立と予防 (2) スタンダードプリコーション (3) 感染経路別予防策 (4) 洗浄・消毒・滅菌の方法 (5) 感染防護用具、薬液消毒、滅菌物の取り扱い (6) 感染性廃棄物の取り扱い </div> <div> 2 創傷管理の技術 (1) 創傷の治癒過程 (2) 創傷の治癒過程に影響する因子 (3) 創傷処置の方法 ①創洗浄と創保護 ②ドレッシング・包帯法 </div> <div> 3 診察時の看護 (1) 診察時の看護師の役割 (2) 診察介助の方法 </div> <div> 4 検査時の看護 (1) 検査時の看護師の役割 (2) 検体検査 ①検体の採取方法と検体の取り扱い・採尿、採便、採痰 ②静脈血採血の方法 ③動脈血採血の介助 (3) 主な検査時の看護 ①X線撮影（単純・造影） ②CT ③MRI ④内視鏡検査 ⑤超音波検査 ⑥各医学検査（RI、PET） ⑦穿刺検査 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 防護用具の装着（ガウン、マスク、手袋）、無菌操作 静脈血採血（モデル）、包帯法（巻軸包帯、三角巾）			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論 X (薬物療法時の看護)	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 薬物療法に伴う看護の役割と心身に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 薬物療法時の看護 （1）薬物療法時の看護と法律 （2）薬物療法における安全管理 （3）看護師の役割 （4）与薬方法と効果の観察  2 与薬の援助 （1）経口与薬法 ・内服薬、バツカル錠、舌下錠 （2）吸入療法 ・定量噴霧式吸入器、ドライパウダー吸入器、ネブライザー （3）注射法 ・皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射 輸液ポンプ・シリンジポンプの管理（ME の基本） （4）その他の与薬法 ・直腸内与薬、経皮的与薬、点眼・点鼻法			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 経口与薬、吸入（演示）、直腸内与薬（モデル） 皮下注射・筋肉内注射・点滴静脈内注射（モデル） 輸液ポンプ・シリンジポンプ <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

臨床看護方法論	講師：	2 年前期	1 単位（15 時間）				
<b>授業の目標</b> Ⅰ 臨床看護の概念が理解できる。 Ⅱ 対象の症状・徴候から問題解決するための臨床判断の基礎的能力を身につける。							
<b>授業の内容</b> <table><tr><td>1 臨床看護の概念 (1) 臨床看護とは (2) 対象の理解 ①急性期 ②慢性期 ③リハビリテーション期</td><td>3 臨床でよくみられる症状に応じた看護 (1) 発熱 (2) 呼吸困難・咳嗽・痰 ①酸素療法 ②一時的吸引 (3) 疼痛 (4) 浮腫 (5) 食欲不振・悪心・嘔吐 (6) 出血・吐血・下血 (7) 水分・電解質異常</td></tr><tr><td>2 臨床判断 (1) 臨床判断とは (2) 看護師の臨床判断プロセス (3) 臨床判断の実際 ・呼吸困難がある対象 ・対象の症候から心不全の推察 ・対象に必要な看護</td><td></td></tr></table>				1 臨床看護の概念 (1) 臨床看護とは (2) 対象の理解 ①急性期 ②慢性期 ③リハビリテーション期	3 臨床でよくみられる症状に応じた看護 (1) 発熱 (2) 呼吸困難・咳嗽・痰 ①酸素療法 ②一時的吸引 (3) 疼痛 (4) 浮腫 (5) 食欲不振・悪心・嘔吐 (6) 出血・吐血・下血 (7) 水分・電解質異常	2 臨床判断 (1) 臨床判断とは (2) 看護師の臨床判断プロセス (3) 臨床判断の実際 ・呼吸困難がある対象 ・対象の症候から心不全の推察 ・対象に必要な看護	
1 臨床看護の概念 (1) 臨床看護とは (2) 対象の理解 ①急性期 ②慢性期 ③リハビリテーション期	3 臨床でよくみられる症状に応じた看護 (1) 発熱 (2) 呼吸困難・咳嗽・痰 ①酸素療法 ②一時的吸引 (3) 疼痛 (4) 浮腫 (5) 食欲不振・悪心・嘔吐 (6) 出血・吐血・下血 (7) 水分・電解質異常						
2 臨床判断 (1) 臨床判断とは (2) 看護師の臨床判断プロセス (3) 臨床判断の実際 ・呼吸困難がある対象 ・対象の症候から心不全の推察 ・対象に必要な看護							
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 酸素療法（中央配管、酸素ボンベの管理）、一時的吸引（モデル） 臨床推論（演習）							
<b>評価方法</b> 筆記試験、レポート（心不全の患者の看護）							
<b>テキスト</b> 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護過程に沿った対症看護―病態生理と看護のポイント― 学研メディカル秀潤社							